

分科会での主な意見等

主な意見等	担当課
(事)・・・事務局	
<p>《妊婦・赤ちゃん支援分科会》</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 出生連絡票は自分で切手を貼って返信するのか。 <p>(事) そのとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 貼らずに出せるようになるとういと思われる。 	健康推進課
<p>(妊婦健康診査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊婦健康診査のH28実績が1,181件となっている。H30の見込み980件は少ないように感じる。 <p>(事) 事業計画の「子どもの推計」を基に算出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の出生数は推計より多くなっているの、ここまで減らさなくてもよいのではないか。 資料3を見ると、推計と比較し、実際の統計では150人から200人くらい多くなっている。この数値を中間見直しとして上乘せしてはどうか。 子育てしやすいまちとして頑張っていますよという姿勢を見せてもよいと思われる。新病院が開院するという期待もある。 <p>(事) 実数に合わせるのであれば、現在の出生数が1,100人くらいなので、減少数を推計に沿って見直すという方法もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> この分科会で意見をもらうということであれば、見直しを行うべきであると考え。現状から考えると、30年度が1,090人、31年度が1,070人くらいでよいと思われる。 	健康推進課
<p>(赤ちゃん訪問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃん訪問についても、実際の訪問件数が見込みより増えている。妊婦数が増えるのであれば、赤ちゃん訪問の件数も増えるのではないかと。 <p>(事) 妊婦健康診査の数値とリンクするので併せて見直しが必要になると思われる。妊婦健康診査数と赤ちゃん訪問数は30人から40人くらいの差を見込んでいたので、30年度は1,050人くらい、31年度は1,040人くらいと考えられる。</p> <p>(事) 今年度の親子健康手帳の発行数は、半年で570～580件くらいとなっている。月にばらつきがあるので単純計算しにくい、おそらく1,000人を超えると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度もそういった状況であれば、見直しの理由となる。 	健康推進課
<p>(養育訪問支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実績値が27年度から28年度で増えている要因は何か。 <p>(事) 以前は、訪問を行っても、通常訪問として取り扱い、養育支援訪問でカウントしていなかった訪問もあった。そのあたりをきちんとカウントすることによって数値が増えている。養育訪問を必要とする家庭の判断は係内で会議を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 件数よりも内容が重要である。今後も、件数どころより、必要な支援が届くような対応をお願いしたいと思う。 	健康推進課
<p>《子育て支援分科会》</p> <p>(子育て短期支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て短期支援事業(ショートステイ)では、子どもを預かっている間の保護者のケアが重要ではないか。 <p>(事) 精神的な負担を和らげることを目的として利用する場合は、市の相談員が面談や家庭訪問などのカウンセリングを行っているが、単純に保護者が留守にする間だけ預けるといった特に問題のないケースもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出産の際にショートステイを利用する方はいるのか。 <p>(事) 割合的には少ない。</p>	子ども総合相談センター 子ども未来課

- ・ シングルの方は出産時に困るのではないか。潜在的な需要はあるのではないか。
- (事) 児童養護施設であり、出産時に積極的に使ってくださいという施設ではない。
- ・ 積極的に使えるような環境にできないか。
 - ・ インターネットで調べても詳しいことが出てこない。良い制度なので、もう少し使いやすくしていただけるとよりよい。

(病児保育事業、ファミリー・サポート・センター事業)

- ・ ファミリーサポートセンターの利用料が高く、シングル家庭は尻込みしてしまう。できれば、シングル家庭に対する市からの補助をお願いしたいが、一方で、桑名市は援助会員が少ないので、需要が増えた場合、マッチングできなくなるという問題も生じる。
- (事) 先ほどのショートステイは、量の見込みと実績値に近いが、ファミリーサポートセンター事業については、量の見込みに対し実績値が大きく乖離している。潜在的な需要はあると思われるが、マッチングが難しいという問題もある。その中で、今回、どのように中間見直しをすべきか悩ましい。
- ・ 専業主婦が減っており、高齢の方も働く時代であるため、援助会員の確保がますます厳しくなると思われる。

子ども未来課
保育支援室

- ・ 病児保育事業について、はなまるは空きがあるが遠い。ウェルネスは満員であることが多いが、はなまるは誰でも利用できるのか。
- (事) 誰でも利用できる、以前はウェルネス1箇所しかなかったが、需要が多いため2箇所目を開設した。広域利用も多い。
- ・ 今後ますます需要が増える可能性もあるのではないか。
- (事) 量の見込みについて、中間見直し案と実績値には少し開きがあるが、実績値の伸びが大きいので、量の見込みを下げる必要はないのではないかと考えている。
- ・ 女性が働いている時に1番困るのは子どもの病気である。保育所に看護師を置いて面倒見ていただけると1番よいが、部屋の確保と看護師の配置が課題となる。
 - ・ 女性が活躍できる環境を整えるのであれば、国は病児保育に対してお金をかけるべきである。
 - ・ 自治体によっては、保育所の中で病児保育を行っている。桑名市では実施できないのか。
- (事) 場所の確保等の問題もあり、現状では難しい。本来の待機児童対策の問題もある。病児保育の必要性も理解しているが、総合的にどのように環境整備をしていくべきか検討が必要がある。
- ・ 保護者が働く事業所側においても、子どもが病気の時は、仕事を休みやすい環境整備をしていただけるとよいが。

(利用者支援事業、子育て支援センター事業)

- ・ 子育て支援センターで、利用者の仲介を行っている職員は何人いるのか。
- (事) 利用者支援事業として、子育て支援コンシェルジュを子育て支援センターに2名、保育コンシェルジュを市役所に1名を配置している。
- ・ 支援センターでは親同士の交流が大事であるが、携帯電話が使えないのでママ友になるチャンスを逃すことがある。もっと交流できるような工夫をしていただけるとよりよい。
 - ・ 他市では、子育て支援センターを利用するお母さんたちが協力してお祭りを企画しているところもある。お客さんではなく、お母さんたちが主体となって行動できると交流を深めやすい。
 - ・ 積極的な人を活用し、皆を引っ張ってもらおうとよい。お母さんたちが主体的になって行動してもらおうことが大事である。
 - ・ ベビープログラムの中でもお母さんどうしが交流してもらえるとよい。
 - ・ 子育て支援センター以外で、地域でも交流の場があるとよい。
- (事) 民生委員や子育て団体が各地区で広場等を開催している。但し、回数は限られてしまうので子育て支援センターの職員が地域に出向くこともある。
- ・ 常設で通いやすいというのが親のニーズである。行政主体の場はハードルが高い場合がある。気軽に行ける集いの広場があると参加しやすい。
- ・ 子育て支援センターは、子どもが3ヶ月以上からしか利用できないことがネックだった。上の子がいると、新生児と一緒に家にいるのはしんどかった。
- (事) 利用制限は、概ね3か月以上としている。

子ども未来課

- (事) この分科会では、量の見込みの変更はしていない。概ね計画通りと考えている。ファミリーサポートセンター事業だけは計画と実績が乖離しているが、ニーズ調査等から潜在的なニーズを考えると、量の見込みも計画数値に近いと考えているがどうか。確保方策についてはもう少し検討したいと考えている。
- ・ 数値だけにこだわらず、行政として常に柔軟な対応をしていただけるよう努めていただきたい。
 - ・ (9)と(10)の事業は毎年量の見込みが減少しているが、実績は上がっている。数値を下げると予算の削減にもつながる可能性があるため、上げた方がよいのではないか。
- (事) 人口減少を見据え、年々減少としているが、実績値も考慮し、再度検討したい。
- ・ ぜひ上げていただきたい。コンシェルジュの存在を知らなかったが、もっと周知すればさらに利用者は増える可能性がある。

子ども未来課

《教育・保育支援分科会》

(一時保育事業)

- (事) ファミリーサポートセンター事業はマッチングが課題となっている。
- ・ 量の見込みと実績値が乖離しているのはなぜか。
- (事) ニーズ調査を結果に試算している。アンケート時には希望していたが実際の利用に至らなかった方もみえろと考えられる。
- ・ ファミリーサポートセンター事業は概ね計画どおりだが、一時預かりの量の見込みが大きく乖離しているのはなぜか。
- (事) 待機児童対策として、一時預かりより、保育所への本入所を優先させたことで、見込みより実績値が少なくなっていると考えられる。
- ・ 確保方策では11,000となっており余裕があるように感じられるが、実際には一時保育を使えないという話も聞く。
- (事) 非定期枠ではなく、緊急枠は各所1名となっているため、その枠が空いていない可能性はある。
- ・ それでは確保できていることにならないのではないか。確保方策の数値を決めるのであれば、実際のキャパ数×日数がどの程度かといった資料が必要である。1番の問題は、そもそも実際に確保枠があるかどうかということである。
- (事) 広さはあるが保育士の確保には課題がある。
- ・ 実績値から日数で割り返すと、1日の利用者数は約15人となり、まだ余裕があるようにみえるが、実際には入れないという話を聞く。このあたりの理由をもう少し分析していただきたい。

保育支援室
子ども未来課

(一時預かり事業)

- (事) 実施園数が増えているため、27年と比較し28年度は4.1%増加している。中間見直しはこの伸び率を根拠としている。
- ・ 実施園の増加数や規模が年度によって異なるのに、同じ増加率で計算してよいのか。増加の原因を明確に分析して再考していただきたい。

教育環境整備室
保育支援室

(保育・教育の量の見込みと確保方策)

- (事) 実績値の増減率で中間見直しを図っている。
- ・ 単純な増減率だけではなく、もう少し明確な根拠が欲しい。
 - ・ 3歳以上の就園率は大きく変化しないので、1号と2号はセットで考えていくべきだと思う。例えば、3、4、5歳人口に対する就園率、就園数を算出し、次にそれぞれの年齢において1号2号の比率がどうなっているか考える。そこから算出された数値の推移(増減率)がどうなっているかを基に、量の見込みを予測したほうが、より明確な根拠となるのではないか。
 - ・ もう少し具体的な算出根拠が必要である。毎年単純な増減率だけではない。低年齢児の需要は増えているが枠を増やせば全てクリアできるという単純なものではない。枠を増やしても、行きたい保育園に入れないことも考えられる。
 - ・ 現状でどこが足りていてどこが足りていないか、もっと細かく分析していただきたい。

教育環境整備室
保育支援室

《就学児童支援支援分科会》

(学童保育(放課後児童クラブ)、ファミリーサポートセンター事業(就学児))

- ・ 学童保育所はキャパが決まっているので、希望があるからと言ってすべてを受け入れることは難しいのではないかと。利用料金(保育料)を上げるなどして調整することはできないか。
 - ・ 利用料金の変更は慎重に行わないといけない。値上げすることによって、利用しなくても利用できない家庭も出てくる。
- 事 行政としても受入数の確保に努めているが、受入数を増やすと、新たに利用したいという人が現れる。どこまで増やせば充足されるか分からない状態であり、過剰に設置することもできないため、毎年対応に追われている状態である。
- ・ 地域別のニーズをきちんと分析しているのか。
 - ・ 各学童の実際の人数と推移から伸び率を出していただいているので、概ね正しい数値に思える。
 - ・ 子どもの数だけではなく、実際に対応する支援員の数も考慮して考えていくべきではないか。支援員が不足していると聞く。
- 事 学童保育所でも保育所でも人材の問題はある。確保方策を検討していく上で、そういった視点もきちんと入れていきたい。
- ・ 学童に行っている子の中には、塾への送迎等でファミリーサポートセンターの送迎を利用している子もいる。また、仕事で帰りが遅くなる家庭は、学童が終わった後に利用している子もいる。学童の利用が増えるとファミサポの利用も増えるのではないかと。
 - ・ 塾等への送迎で利用している子は増えている。
- 事 ファミサポは地域によってはマッチングできないこともあるが、利用実績は増えている。学童の利用者数とリンクする可能性が高いので、もう少し分析したい。
- ・ 保育所に通所している時にファミサポを利用していた人はファミサポを知っているが、知らない人は知らない。もっと周知すべきではないか。
- ・ 支援員が減っている。幼、小の退職教員が支援員として来てもらえるような仕組みがあるとよい。
 - ・ シルバー人材センターや社協のボランティアに声掛けをするという方法もあるのではないかと。全くの素人ではなく経験のある方の方が保護者は安心する。
- ・ 量の見込みと確保方策を見直した場合、場所や人材は大丈夫か。
- 事 継続的に検討、対応していく必要がある。現在も、優先順位を付けて随時対応を行っている。
- ・ 学童側も何とか受入れたいと考えている。今後も行政と連携、協議していきたい。量の見込みとして出していただいた修正値は、概ね合っているのではないかとと思われる。
- ・ 他の地域と比べ陵成中学校ブロックの見込み数の伸び率が非常に大きい、この数値で大丈夫か。
 - ・ 新1年生の入所希望数が不明であるが、希望が多ければこれぐらいの数値になると思われる。
- 事 各学童の学年別の実数から算出しているため大きく乖離することはないと思われるが、算出方法は一律であるため、陵成ブロックのように若干大きめの数値になっている箇所もある。しかし、量の見込みとしては、小さな数値より大きな数値で計画したほうがよいのではないかと考えている。

(放課後子ども総合プランの推進)

- ・ 放課後子ども教室は、ボランティアの確保と空き教室が必要となると思われるが新たに増える可能性はあるのか。
- 事 ボランティアの確保にはいろいろな課題があり難しい面もあると思われるが、場所については、学校としてもできる限り協力していきたいと考えている。

子ども未来課

子ども未来課
指導課
生涯学習・スポーツ課